

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成28年10月20日 (2016.10.20)

【公表番号】特表2015-529071(P2015-529071A)

【公表日】平成27年10月5日 (2015.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2015-062

【出願番号】特願2015-527642(P2015-527642)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 9/16 (2006.01)

C 1 2 Q 1/44 (2006.01)

C 1 2 N 9/88 (2006.01)

C 1 2 Q 1/527 (2006.01)

C 1 2 N 9/24 (2006.01)

C 1 2 Q 1/34 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 1 0 1

C 0 7 K 19/00

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 9/16

C 1 2 Q 1/44

C 1 2 N 9/88

C 1 2 Q 1/527

C 1 2 N 9/24

C 1 2 Q 1/34

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月2日 (2016.9.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配列番号 2、5、8、11、14、17、20、23、26、29、32、35、38、41、44、47、50、53、56、59、または 62 に示されるヌクレオチド配列に少なくとも 60 % 同一であるヌクレオチド配列、またはそのいずれかの組合せ、またはその相補体を備え、前記単離されたポリヌクレオチドがペクチン分解を増強するポリペプ

チドをコードする、単離されたポリヌクレオチド配列。

【請求項 2】

配列番号 2、5、8、11、14、17、20、23、26、29、32、35、38、41、44、47、50、53、56、59、または 62 に示されるヌクレオチド配列に少なくとも 60% 同一であるヌクレオチド配列、またはそのいずれかの組合せ、またはその相補体を備える単離されたポリヌクレオチド配列に中程度のストリンジェンシー条件下でハイブリダイズする核酸プローブであって、前記中程度のストリンジェンシー条件が、6×塩化ナトリウム／クエン酸ナトリウム（SSC）中、約 45℃でのフィルター結合 DNA へのハイブリダイゼーション、続いての、0.2×SSC／0.1% SDS 中、約 50～約 65℃での 1 回以上の洗浄を含む、核酸プローブ。

【請求項 3】

cDNA である請求項 1 に記載の単離されたポリヌクレオチド配列、または請求項 2 に記載の核酸プローブ。

【請求項 4】

RNA である請求項 1 に記載の単離されたポリヌクレオチド配列、または請求項 2 に記載の核酸プローブ。

【請求項 5】

一本鎖である請求項 1 に記載の単離されたポリヌクレオチド配列、または請求項 2 に記載の核酸プローブ。

【請求項 6】

異種タンパク質またはペプチドをコードするコーディング配列内の停止コドンによって中断されていない請求項 1 に記載の単離されたポリヌクレオチド配列を含む核酸分子。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の単離されたポリヌクレオチド配列を含む組換え構築物。

【請求項 8】

2、5、8、11、14、17、20、23、26、29、32、35、38、41、44、47、50、53、56、59、62、1、4、7、10、13、16、19、22、25、28、31、34、37、40、43、46、49、52、55、58、または 61 に示されたヌクレオチド配列に少なくとも 60% 同一であるヌクレオチド配列またはそのいずれかの組合せ、またはその相補体を含む単離されたポリヌクレオチド配列を備えた発現構築物であって、前記ポリヌクレオチド配列は、宿主細胞において前記ヌクレオチド配列の発現を制御する転写または翻訳調節シグナル、またはその両方を含有する調節ヌクレオチド配列と操作可能に連結されている、発現構築物。

【請求項 9】

請求項 1 に記載の単離されたポリヌクレオチド配列を含む遺伝子操作された宿主細胞。

【請求項 10】

ポリペプチドを産生するために有効な条件下で請求項 8 に記載の発現構築物で形質転換された細胞を培養する工程、および

前記ポリペプチドを単離する工程

を備え、または前記工程からなる、ポリペプチドを作製する方法。

【請求項 11】

アミノ酸配列を含む単離されたポリペプチドであって、前記アミノ酸配列は、配列番号 3、6、9、12、15、18、21、24、27、30、33、36、39、42、45、48、51、54、57、60 および 63、またはそのいずれかの組合せからなる群より選択されるアミノ酸配列に対して少なくとも 60% 同一であり、かつ、ペクチン酸リアーゼ、ペクチン酸リアーゼ（lyse）C、ペクチンエステラーゼ、およびラムノガラクトツロナーゼ、またはそのいずれかの組合せからなる群より選択される酵素の触媒活性を示す単離されたポリペプチドであって、ペクチン分解を増強する、単離されたポリペプチド。

【請求項 12】

共有結合を介して第２のポリペプチドのアミノ酸配列に融合されている請求項１１に記載のポリペプチドを含むキメラタンパク質。

【請求項１３】

請求項８に記載の発現構築物を含む、形質転換体。

【請求項１４】

請求項８に記載の発現構築物を含む、トランスジェニック真菌 *M. phaseolina*。